

— トルコギキョウ —

トルコギキョウ

———— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病虫害名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
無加温 6～7月出荷		▲ 定植					■ 収穫			● は種			
灰色かび病													
炭疽病													
ハダニ類													
アブラムシ類													
アザミウマ類													
ヨトウムシ類													

灰色かび病

留意事項

1 SDHI剤 (7)、QoI剤 (11) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 ハウス内では換気を良好にし、湿度を下げる。
- 2 被害葉や被害花は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) (12)
 - 【花き類・観葉植物(除きんせんか、ホワイトレースフラワー) 1000倍 発病前～発病初期/4回】
 - ・ [フルピカフロアブル](#) (9)
 - 【花き類・観葉植物(除ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどう) 2000～3000倍 発病初期/5回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフェットフロアブル](#) (7)
 - 【花き類・観葉植物(除きく、ゆり、チューリップ、りんどう) 2000倍 発病初期/3回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) (11) 【3000倍 発病初期/5回】
 - ・ [ゲッター水和剤](#) (10) (1)
 - 【花き類・観葉植物(除ひまわり、ゼラニウム) 1000倍 -/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

- 1 ジマンダイセン水和剤は、汚れが生じるので採花前の散布は避ける。また、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 ハウス内では換気を良好にし、湿度を下げる。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) **M3** 【400倍 発病初期／8回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤選択は特に注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダニオーテフロアブル](#) **33** 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／2回】
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) **20B**
 - 【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム) 1000倍 -／1回】
 - ・ [バロックフロアブル](#) **10B** 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) **劇 13**
 - 【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) **21A** 【花き類・観葉植物 1000～2000倍 発生初期／1回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の雑草を除去する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【花き類・観葉植物(除きく) 2000～3000倍 発生初期／5回】
- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A
【花き類・観葉植物(除はぼたん) 2000～4000倍 発生初期／6回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B
【花き類・観葉植物(除チューリップ) 4000倍 発生初期／4回】
- ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期／5回】

4 ハウスでは、くん煙剤の使用も有効である。(XⅡ省力安全防除 1くん煙 参照)

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネット(赤色ネットは0.8mmも可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500～5000倍 発生初期／2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期／5回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2000倍 発生初期／5回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期／5回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では4mm目合いのネットで被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期/2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) UN
【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期/4回】
- ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 28
【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍
発生初期/4回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。